

人権だより

令和5年度 2学期号

令和5年12月20日発行

【 砥部分校 人権だよりについて 】

砥部分校では人権委員活動として「人権だより」を毎学期に発行しています。

これは、学校で行っている人権・同和教育の様子を生徒を通じて、各家庭、保護者の皆様にお知らせする広報活動です。今学期は2年生人権委員が担当です。トピックは以下の通りです。

- 坂村真民さんの詩の紹介
- 人権・同和教育ホームルーム活動報告

10月31日、砥部町全域で中予地区の人権・同和教育の研究協議が開催されました。砥部分校も会場となり、全校のホームルーム活動が公開となり、午後には研究協議も行われました。

多くの方に参観していただき、生徒主体の活発な活動にお褒めの言葉をいただきました。

9月20日、人権委員さんと1年生希望者、および教員でフィールドワークとして「坂村真民記念館」を訪問しました。その様子は次回紹介します。

今回は2年生の人権委員さんが真民さんの詩から、2篇の詩を選び紹介してくれます。

【 坂村真民（さかむらしんみん）さんについて 】

1909年、熊本県生まれ。終戦後、愛媛県に移住。砥部町に定住し、高校の教員として国語を教え、20歳から短歌に精進するが、41歳で詩に転じ、個人詩誌『詩国』を発行し続けた。97歳で砥部町にて永眠。一遍上人を敬愛し、人生の真理、宇宙の真理を紡ぐ言葉は、弱者に寄り添い、癒しと勇気を与える。

出典：坂村真民記念館 HP

バスのなかで
この地球は
一万年後
どうなるかわからない
いや明日
どうなるかわからない
そのような思いで
こみあうバスに乗っていると
一人の少女が
きれいな花を
自分より大きな事そうに
高々とさしあげて
乗り込んで来た
その時
わたしは思った

ああ これでよいのだ
たとい明日
この地球がどうなるかと
このような愛こそ
人の世の美しいものだ
たとえ核戦争で
この地球を破壊されようと
そのギリギリの時まで
こうした愛を
失わずにゆこうと
涙ぐましいまで
清められるものを感じた
いい匂いを放つ
まっ白い花であった

タンポポ魂
踏みにじられても
食いちぎられても
死にもしない
枯れもしない
その根強さ
そしてつねに
太陽に向かいて笑く
その明るさ
わたしはそれを
わたしの魂とする



【 2学期の人権・同和教育ホームルーム活動 】



1年【自分の周りに目を向けよう

—身近な人権問題—

1年生は夏休み、「自分の周りに目を向けよう—身近な人権問題—」をテーマに人権ポスターを制作しました。今回のホームルーム活動では、その制作時にそれぞれが着目した人権問題で班に分かれ、差別や偏見の原因や対策について考え、発表し合いました。各班の考えや意見を聞き差別や偏見のない世界に代えていくのは、まず自分自身からであることや、自分にもできることがたくさんあることを学びました。

次に、心に響いた坂村真民さんの詩を各自選び、選んだ理由と詩の解釈を話し合いました。同じ詩を選んでいても、選んだ理由や解釈が違って聞いて面白かったです。お互いの意見を認め合う様子が多く見られ、自分たちで発表しやすいホームルーム活動を作り上げられたと思いました。

2年【全国水平社創立 101 周年

—先人たちの思いを引き継ごう—

私たちは、今回のホームルーム活動で「全国水平社創立大会宣言」について学びました。まずは「水平社宣言」に関するキーワードや人物について班で学習した内容を発表しました。次に差別解消のために立ち上がった人の思いや、願いなどを話し合い、意見交換をしました。最後に、みんなで「水平社宣言」の一文を分担し、「自分が充実している時・幸せを感じる時」をテーマに撮った写真を紹介しながら読み上げました。少ない準備時間の中でも、一人一人が事前学習に励み、周りとの意見を交換することによって、人権問題について再認識するととても良い活動の場になりました。かつて、人権・同和教育問題のため立ち上がった先人たちの思いを、これからの私たちが受け継いでいき、差別がない世界を恒久的に作っていきたいです。みんなが真剣に取り組んでいて、進行役としても心打たれるホームルームでした。



3年【結婚差別の解消に向けて】

3年生は「結婚」をきっかけに浮上した差別や偏見について学びました。最初に結婚差別を受けた当事者の体験記をもとにした劇を演劇部員が中心となり演じました。その話の中でどのような差別が行われているのか班で話し合いました。本来二人の意思で決めるべき結婚が、理不尽な理由で反対されることがあります。今回の話では同和地区出身という理由で差別を受け結婚を反対される内容でした。もし、自分が当事者だったらどう行動するか。当事者を支える側だったらどうするかなど考えました。

結婚には様々な形や考え方がありますが、真に対等な立場で関りあうこと、それぞれの生き方を認めた「結婚」について自分自身の考えを持つことが大切だと思いました。

